



# かせかけ

編集 沖縄県立看護大学  
広報専門部会  
発行 平成19年10月15日



## 目次

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| ●学長就任にあたって …………… 2   | ●第9回看護大祭 …………… 8    |
| ●新管理者の抱負 …………… 2     | ●学生会長挨拶 …………… 10    |
| ●博士後期課程1期生修了 …………… 4 | ●附属図書館より …………… 10   |
| ●学生の活動 …………… 5       | ●教職員の動き(1) …………… 11 |
| ●委員会・専門部会の紹介 …………… 6 | ●教職員の動き(2) …………… 12 |





## 学長就任にあたって

学長 野口 美和子

平成19年4月1日付で沖縄県立看護大学学長に就任いたしました。

沖縄県立看護大学は開設からすでに9年、上田礼子初代学長のもと、学士課程を完成し、そして博士課程（前期・後期）を立ち上げ、それも丁度完成しておりました。また、独立行政法人大学評価学位授与機構の大学機関別認証評価を受け、「大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」との認証を得ていました。学長就任の挨拶で県内の保健医療機関をまわりましたところ、卒業生に対する機関の評価も極めて高いことが分かりました。

このように立派に完成した看護大学の学長の職を引き受ける時、私が目指すべきことは何か真剣に考えました。

学部の完成に引き続き、博士課程の完成に向けて前に前に、より高くより高くを目指し

て進んできたであろう過程で、もし落としてきたもので次なる発展のために必要なものがあるのであればそれを取り戻し、次の10年のために足腰をしっかりとすることではないかと考えました。

開設後は、次々に必要に迫られて様々な委員会やプロジェクトがつくられるものです。これら委員会等の組織体制を見直し、教育研究や社会貢献の活動に筋を通し、相互に連携をつけて活性化の基礎をつくることに取り組みました。

次に「大学として基準を満たしていること」が認証され、学部と大学院での人材育成も軌道にのっていますので、これを維持することはもちろんのことですが、その上に沖縄の看護の問題をとらえ、その向上に貢献することに専心したいと考えました。

沖縄県民のための、そして沖縄県の看護職

## 新管理者の抱負



教務部長兼教授 前田 和子

本学は今年度9年目を迎える。上田前学長ならびに歴代の教務部長をはじめとした教職員一同の努力により、今年3月には大学評価・学位授与機構の認証評価を受け、全国の看護系大学の中でもいち早く大学としての基準に達しているとのことお墨付きをいただいた。新しく教務部長を仰せつかった私の役割は、この栄誉を汚さぬようにさらに本学の発展を目指した旗振り役だと認識している。今後どちらに向かって旗を振るか。当面の課題は、第一に沖縄県の深刻な助産師不足への対応である。平成20年4月に別科（助産専攻）を開設し新たに20名の助産師を養成しようとして準備している。第二に平成21年度に実施される指定規則改正を視野に入れながら、昨年度完成年度を迎えた大学院教育と整合性のとれた新カリキュラム再編に取り組むことである。学生の皆さんには、大学生としての自覚をもち、将来専門職業人としての看護職者になるために欠かせない自律性を期待したい。



のための知の中心、向上活動の拠点として看護大学を成長させる必要があり、このことを教職員の気持ちを1つにして取り組めるよう力を注ぐことが私の課題ではないかと考えています。

与えられた任期は4年ですから、目標をしっかり持って役割を果たしたいと思います。

私は、沖縄県立看護大学を発足させるにあたって設けられた看護大学設立構想委員会のメンバーの1人でした。当時私は、日本の国立大学でただ1つの看護学部を持つ千葉大学のスタッフとして日本の看護系大学・大学院の教育・研究の推進に向けて努力していました。その努力を沖縄にも拡げるよう求められたと感じ、構想委員をお引き受けしました。

戦後、特異な環境のもとで、保健医療を含む社会基盤が整備されてきた沖縄ですが、看護教育の分野で、その良いところ有利だったところを活かし、また足りなかったものを取り戻すために県立看護大学の開学は是非とも必要だと考えられており、私も構想委員のメンバーとして一生懸命考え発言したことを、今でも鮮明に思い出します。

その折、沖縄のあちこちを見せていただき、

また県民の方々、看護職の方々のお話を伺うことができました。看護大学の開設を見据えて県立の看護学校を1つにまとめ立派な校舎を建てて準備されておられた沖縄看護界の方々の熱意と、戦後焼土の中から県民の命と健康を守り抜いてきた沖縄看護職の自信にふれて、沖縄の看護職の方々に尊敬の念を抱くようになりました。そんな方々と一緒に仕事ができるのですから、沖縄県立看護大学学長の責任は重く、身に余る役割ではありますが、感謝して務めたいと思います。

開設からもう9年です。来年は10周年記念を控えています。すでに学部卒業生389名と大学院修了生15名（前期13名、後期2名）が県内外で活躍されています。これらの方々から大学に対するご意見をいただきたいと思っています。又、前身の看護学校の同窓生の皆様からも先輩としての御意見御支持をいただきたいと思っています。

そして、後援会の皆様をはじめ県内の各界の方々そして県民の皆様から沢山ご意見をいただき、これに大学が応えていく中で看護大学を沖縄の大学に育てていただき、沖縄と一緒に世界にはばたきたいと考えています。

## 新管理者の抱負



附属図書館長兼教授 金城 芳秀

平成18年度、本学は独立行政法人大学評価・学位授与機構による認証評価、いわゆる第三者評価（外部評価）を受けました。その際、附属図書館に関する改善点として、「図書の冊数が不足しており、看護系の図書には刊行年の古いものが多く、整備が不十分である」との指摘を受けています。雑誌や図書はかなり充実していると思っていたため、個人的には意外な結果でした。実は、図書を配架するスペースが狭小になってきたため、和文図書はともかく、英文図書が閉架の集密書架（許可なく立ち入り禁止）に移動していました。これでは学生の目には触れないことになり、学生への教育的配慮が不足していたことを意味します。今後の改善点として、単に図書の冊数を増やすだけではなく、文献・情報の入手機会を増やすためにも、蔵書の配架から情報提供まで、さらに戦略的な環境づくりに取り組まなければならないと考えています。これは小さな図書館の大きな挑戦です。



大学院博士後期課程1期生修了



生涯発達保健看護分野  
成人・老年保健看護  
(老年専攻)

沖縄県立総合教育センター  
下地 敏洋

何人も老いから逃れることはできない。しかし、何人も最期まで満足した人生を送りたいと願っているであろう。私達が幸福感に満ちた高齢期を生きるには、生涯において発達し続けることが必要ではなからうか。そのような思い(そうした発想)から、高齢社会を迎えた今こそ、高齢期の幸福感に関する研究を以て医療福祉だけでなく、学校教育など多くの専門領域にも還元できたらと考えた。

時期を得て、米国の大学院で老年学を学んだ私に、県立看護大学大学院で研究を継続できるチャンスが訪れた。しかし、研究の構想、絞り込み等に手間取り、期間内修了の厳しさに躊躇する私の前に、輝くばかりの声で私の研究の重要性と必要性について力説し立ちはだかる前学長の存在があった。

その後、質的研究の第一人者である野口学長、大湾教授、神里教授との出会いがあり、それを機に、研究は質的・量的にも深化し着実にゴールへ向かった。そして、難産ではあったが、論文は完成した。

研究者としては、今、スタートラインに立ったばかりである。今後の研究業績如何で真価を問われることになるであろうことは言うまでもない。

今回、大学院での研究生活を通して気づいたことは、外国語の運用能力や専門とする領域以外の知識の修得の必要性である。国際学会等において海外の研究者と研究内容を共有すること、多くの領域の学問を多角的な視点から総合的に活用していくことが重要と考える。学びの進化を研究の展望としたい。



先端保健看護分野  
新領域保健看護領域

沖縄県中央保健所  
知念 真樹

私は、平成19年3月に、博士後期課程1期生として沖縄県立看護大学大学院を修了しました。

私は、保健師として働きながら、保健師の置かれている現状や日々の業務を新しい視点でとらえ直し、浮かび上がってきた課題に取り組み、その成果を現場に還元することで、地域保健サービスの向上をめざしたいとの思いを温めてきました。そして、現場の実践の中で積み上げられている豊かなデータを、エビデンスとして形にしていけるように、研究者としての能力を磨きたいと考え、3年前に本学に入学しました。

現在の仕事は、市町村支援を含めた健康づくり全般に関する業務を行っています。今回の博士論文でテーマにしたものが、現場で生かすことができるポジションであり、実際どのように還元していくかを日々考えて業務を行っている所です。

大学院を修了して、研究者としてのスタートラインに立ったばかりですが、研究者としての視点を常に忘れず、現場と大学との架け橋となるよう頑張りたいと思います。





## 学生の活動

## 国連大学グローバルセミナーに参加して

4年次 岡田 悠偉人



尾身先生(右)と本人(左上)、ベトナム留学生(左下)

8月4日から7日にかけて山口で開催された、国連大学グローバルセミナー「世界に広がる健康危機」に参加して来ました。全国から国際政治、遺伝子工学、国際保健などの様々な分野を専攻する日本人学生と留学生約50名が一堂に集い、世界の第一線で活躍する講師陣からレクチャーを受け、小さなグループに分かれて熱い議論を交わす企画です。講義のテーマは、「健康と文明」「食の安全保障」「国連と女性問題」「死にゆく人へのスピリチュアルケア」「新型インフルエンザ」「食の世界的不均衡」「アフガニスタンの保健医療」で、様々な国や専攻の学生がおり、非常に多面的な議論となりました。もちろん、議論が絶える事はなく、部屋で酒を片手に徹夜で、様々な言語が飛び交う一発触発の熱い議論を交わした4日間でした。特に、感銘を受

けたのがSARSを制圧した人としてタイム誌の今年の100人にも選ばれた、WHO西太平洋局長（アジアのWHOのトップ）の尾身茂氏の講義でした。SARS時の判断の話はもちろん、高い役職の方なのに、なんと自分たちの部屋で一晩酒を共にしながら、熱い議論に参加してくれたのです。「若者よ、自分を信じて自分の道を行きなさい。」と熱弁を振るう尾身氏に、まだ確立されていない国際保健に挑戦する勇気をもらいました。国連には「ミレニアム開発目標」という発展途上国に焦点を当てた目標が8項目あります。驚くべきことに、そのうち4項目半が健康に関する問題であり、生活を中心に捉えて、環境を整えて健康を支えるという看護の役割が大きく期待されている項目なのです。まさに、今や看護のフィールドは地球全土なのです。これからの看護の役割と重要性を再確認できた非常に意義深いセミナーでした。





## 委員会・専門部会の紹介

### 海外研修生を受け入れて



国際交流室運営委員会

委員長 神里 みどり

JICA企画の地域母子保健強化コースの一環として、南米6カ国から研修生10名が来日し、本大学において2日間（7月11日、12日）にわたる研修が開催された。主なる研修内容は、母子保健教育や健康教育に関するもので、3名の学内講師（金城芳秀教授、玉城清子教授、川崎道子講師）による講義、演習、プレゼンテーショ

ン、討議等を組み入れた研修は非常に好評であった。その中でも特に印象的であったのは、研修生によるプレゼンテーションで、自国の文化的特徴を踏まえながらロールプレイなどの手法を活用して健康教育を展開していたので、当方の教員にとっても他国の文化的背景や医療保健の事情を学ぶいいチャンスであったといえる。他国から研修生を受け入れることは異文化交流や理解につながっていくので、今後も研修内容を充実させながら積極的な研修生受け入れに努力していきたい。

### 地域のニーズ重視の地域交流

地域交流室運営委員会

委員長 大湾 明美

本学は、平成11年4月に開学し、大学教育、大学院教育（博士前期課程、博士後期課程）の高等教育の全プログラムを平成19年3月に完了しました。

これからは、地域に開かれた大学をめざし、科学的に実践できる保健医療福祉の専門職の教育支援、及び地域の人々の健康福祉のための地域支援を強化します。その窓口として、5月に「地域交流室運営委員会」が誕生しました。

地域交流室運営委員会では、地域のニーズ重視を基本方針として、公開講座や地域との共同研究・支援などを実施します。先日は、大学院

入学に必要とされる知識や準備のしかた、専門性を極めるための生涯学習への情報提供を目的に「公開大学院入門講座」を開講しました。約30人の看護職者が講座を受講し、文献検索や論文の読み方、論文読解に必要な英文法などを学びました。

地域のニーズに応じて出張による公開講座も開講しています。また、地域の保健看護の課題について、共同で研究ができる準備も進めています。地域のニーズ重視の地域交流には、地域の主体的参加が必要です。皆様の声をお聞かせ下さい。



進路対策専門部会

部会長 當山 富士子

1. 平成18年度卒業生(5期生)の就職・進学状況

(平成19年3月末現在)

		県内	県外	合計	
		(66.2%)	(33.8%)		
● 就職		49	25	74	
	看護師	国公立	33	9	42
		その他	4	12	16
		合計	37	21	58
保健師	国公立	5	0	5	
	合計	5	0	5	
助産師	国公立	1	1	2	
	その他	5	3	8	
	合計	6	4	10	
養護教諭	国公立	1	0	1	
	合計	1	0	1	
● 進学	国公立	2	1	3	
	その他	0	1	1	
	合計	2	2	4	
● 未定・未確認		0	0	1	
合計 (人)				79	

2. 就職セミナーなど

平成19年度は、「就職セミナー」として、①小論文の書き方(県立芸大准教授 波平八郎)、②面接の受け方(県看護協会副会長 奥平登美子)、③就職先の選び方(本学学生部長 嘉手苺英子)の実施の他、専門部会員による進路相談を実施している。

「平成19年度 実習連絡調整会議」を終えて

実習専門部会

部会長 金城 忍

4月25日、沖縄県立看護大学において実習連絡調整会議が行われました。保健看護学は実践科学に基づいた学問であるため、本学の学生にとって臨地実習は不可欠です。そこで毎年4月には、臨地実習を受け入れている施設の方々を集まいただき、本学の教育理念や実習目標を共有した後、領域毎の実習連絡調整を行っています。今年度の実習連絡調整会議には、37施設の代表者が参加していました。

会議ではまず初めに野口美和子新学長から挨拶が述べられました。その後、各委員の先生方から本学の実習目標や段階別実習、国家試験合格状況および就職状況についての説明がなされました。全体説明終了後の領域毎実習連絡調整では、具体的な実習展開についての活発な質疑・応答、意見交換が交わされました。

毎年会議に参加して感じることは、施設の方々が生を育てていこうという思いの強さです。私たち教員のみならず現場の方々、自分たちの後輩や関係職種となる学生を育てていこうという思いがひしひしと伝わってきます。そのような現場の方々の思いに支えられながら、学生たちは一人前の専門職者として成長していくと考えます。

学習支援専門部会

部会長 新城 正紀

1. 国家試験結果(平成18年度卒業生)

免許	人数(人)		合格率(%)	
	受験者	合格者	本学	全国
看護師	79	77	97.5	90.6
保健師	78	78	100.0	99.0
助産師	10	10	100.0	94.3

2. 国家試験対策

平成19年度の国家試験対策として、8月に5日間の国家試験対策特別講義を実施。更に年明けの1月にも直前対策として特別講義の開講を予定している。

“高校訪問”

広報専門部会

部会長 石川 りみ子

質の高い多くの受験生を得るために、県内各地を教員が訪問して、本学の使命、特徴、カリキュラムを紹介する高校訪問が今年も始まりました。3年日になりますが、その地道な活動も軌道にのってきたようで、今年は26校から希望がありました。参加者は、3年生と進路指導の先生が主ですが、中には1年生から参加する高校もあり、参加者もひとりから多くは30数名と差があります。しかし、どの高校からも一人でも多く合格させたいという熱意が伝わってきます。希望者は多いのですが、なかなか合格しなくて・・・と、合格する秘訣をあの手この手で質問してきます。

高校から、夏季休暇前に大学から高校訪問をしてくれるので、夏休みの受験勉強の動機付けになってよい、今後も是非続けてほしいとの声があります。オープンキャンパスの参加者も年々増え、今年度も昨年より30数名増加したことも高校訪問のPR成果かとの活動に期待をよせています。

質問の中に、専門学校との違いや他大学との違いを聞かれますが、アドミッションポリシーをよく伝え、双方が臨む受験生を多く得たいものです。高校訪問は、全教員体制で取り組んでいますが、先生方の協力を得て今後も大学の広報に努めていきたいと思ひます。





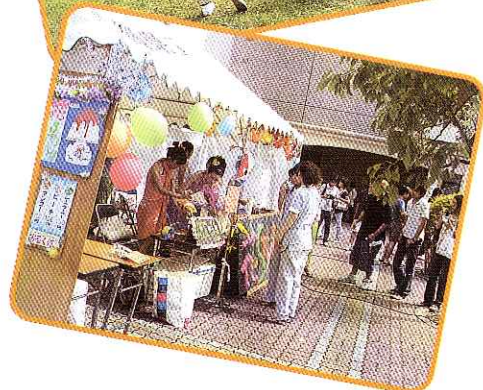
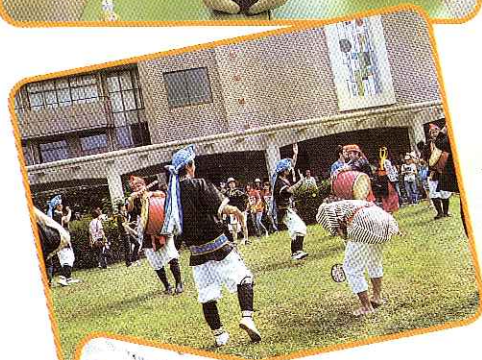
第 9 回 看 大 祭

第9回 看大祭実行委員長  
新垣 真太郎



看大祭にご来場頂いた皆様、誠に有り難う御座いました。看大祭も今年6月で第9回を数えることが出来ました。今年も梅雨時期ということもあり雨も降りましたが、多くの来場者を迎えることができ、心から嬉しく思います。

今年の看大祭のテーマは『看大祭 ここでの思い出 Priceless!』です。このスローガンには『ここでの思い出 Priceless!』の言葉の通り、〈思い出には価値がつけられない〉という意味が込められています。看大祭の特徴である看護系出展では、これから看護職を目指す人だけではなく、健康を願う一般の人々にも役立ち、ご来場の皆様は数々の活用できる知識を得られたことと思います。また、飲食系出展では手作りの美味しさを味わうことができたとと思います。我々看大生も皆様方からたくさんの笑顔を得ることが出来ました。エイザー演舞、コーラスなどの賑やかな音楽や周りの笑い声からは、大人に忘れてしまった少年少女時代を思い出させて







くれました。看大祭を体験している瞬間も、体験した後も〈価値のつけられない時の流れ〉として大切にしていきたいと思えます。その他にも学生たちが日頃から頑張っているサークル活動などの発表を通して、本学生との交流も楽しみながらかけがえのない一時を過ごして頂けたことと思います。

また、今年もパンフレットに掲載する広告の協賛スポンサーを募り、盛大に執り行うことが出来ました。今回でこの取り組みも3年目となりましたが、昨年までの反省を活かしながら取り組んでいったのではないかと考えております。まだまだ皆様方には配慮が足らずにご迷惑をおかけしたことかと思いますが、多くの方々にご協力して頂き、実行委員一同、心から喜んでおります。協力して下さった企業の皆様をはじめ、教職員の皆様方にご場を借りまして、御礼を申し上げます。誠に有り難う御座いました。







**学生会長挨拶**

学生会長 2年次  
宮國 聡

今年度の沖縄県立看護大学学生会執行部、会長を務めさせていただきます、宮國聡です。昨年度は精力的な活動で、多くの実績を重ねてきました、前会長の功績を無にしないように一年間の任期を精一杯やりぬこうと思っています。学生会では、主に大学でのさまざまな連絡・調整やイベントの企画・運営、サークル活動の推進、学生会の予算案編成などを行っています。色々と大変なことはありますが、執行部員全員で楽しく取り組んでいます。2007年度の学生会の目標は、「教職員及び1年次～4年次までの学生の積極的交流を図り、大学の雰囲気を一層良くし、活性化を図って行く」です。また活発に学内イベントやサークル活動を行えるようにすることです。全学生1人1人が主役となることのできる企画を多く取り入れ、昨年以上に楽しいものとなるよう、計画していきたいと思えます。また、学生の皆さんが興味をもち、積極的に参加できるような学生会をつくっていきたく思いますので御協力よろしくお願い致します。今年度の学生会執行部を引っ張っていく立場として、今までの経験を生かし、活動に反映させていきたいです。役員一同、日々活動に励み大学の繁栄のために頑張っていきたいと思えます。しかしながら、まだまだ未熟な点も多く、皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、これから一年間の任期の間、皆様どうかご支援ご協力をお願い申し上げます。

**附属図書館より**

附属図書館長  
金城 芳秀

学内利用者には気づかない点があるものです。私が学外利用者になったら、本学附属図書館のサービスに対して、残念に思うだろうなという点の一つあります。それは館内で文献検索用オンラインデータベースが十分に利用できないこと、館内のノートパソコン(LAN接続)が使用できないことです。例えば、本学の卒業生が学外利用者にシフトしたとき、「えっ、利用できないのですか?」という単純な疑問が湧いてくるのではないのでしょうか。ははは、卒業した証ですよ・・・もちろん、そうではありません。疑問や不満をきちんと受け止め、よりよい環境づくりに取り組みたいのです。そうは言っても、金もない、人もいない、時間もない、うーん難しいという声も聞こえてきそうです。ユニークなアイデアは困ったときにこそ出てくると期待しましょう。そのヒントを与えるのは利用者のクレームということで、これまで以上に積極的に、あなたの声を届けてください。あなたは何かでお困りですか、どうぞ遠慮なく。





## 教職員の動き (1)



外国語 講師 山城 綾子

4月2日付で着任しました山城綾子です。外国語の英語科目を担当しています。これまで主に文学や言語学専攻の学生に英語を教えておりましたが、今回、看護大学という未知の世界で教育と研究の機会が与えられたことを大変光栄に思っております。微力ながら英語教育を通して学生が異文化の世界へ目を向け、物事を色々な側面から捉えることができるよう手助けができればと考えております。英語教育の現場では2000年以降実社会の実践的側面が重視されその要望に応える形でコミュニケーション能力養成を目的とした英語教授法の開発が進められてきましたが、近年になり、英語の総合的能力の欠如が指摘され始め社会のニーズと外国語教育としての英語の在り方でどのように橋渡しをしていけるのかが課題となっています。また、小・中・高・大を通じた英語教育の一貫性で連携の必要性が求められています。教養と実践を考慮した英語教育・研究に励みますので、今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。



総務課長 古波蔵 保成

看護大生並びに教職員の皆様、本年4月の定期人事異動で企画部土地対策課から参りました古波蔵です。どうぞよろしくお願い致します。

私、これまで土地行政、基地行政、環境行政等に携わってきましたが、教育行政とりわけ教育現場では初めての勤務であり、当初、戸惑いもありました。しかし、4ヶ月余を経過した現在、どうにか大学全体の姿が見えるようになりました。

これまでに感じたことを1~2点挙げてみますと、学生が非常に真面目で、また、挨拶が上手であるということです。このことは、看護大祭やオープンキャンパスで来校者等と接する態度のひとつひとつに見ることができ、好感が持てました。

一方、大学は会議が多く、かつ、長いように思います。この辺が行政と大学現場の違いかなと感じている今日この頃です。

いずれに致しましても、私に与えられた職務を充分認識し、学生が学びやすい環境を教職員と一体となって作り出していきたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願い致します。



法人化調整総括 具志堅 健

4月から、法人化調整総括として、公立大学法人化に関する業務を行っています。知事公室防災危機管理課からの異動ですが、前から漠然と看護大学勤務も良いかなと思っていました。異動の内示があったときは、縁を感じましたし、法人化調整総括の職についても、業務があとあと形として残るので、悪くないと思いました。私は、新しい職場に就くとき、何か痕跡を残したいと考えます。心の中で自分がやった仕事だと密かに自慢します。家族からは自慢話が多いと文句を言われていますが。

公立大学法人化は、大学の自主、自立性の下に、柔軟で機動的な大学運営により、教育・研究の充実強化を図るとともに、大学の地域貢献を推進することなどを目的としております。法人化により、大学が1年、2年と年月を重ねるごとに、より充実したものになると思っておりますが、そうなるように準備の段階で教職員や関係者と協力してしっかりした制度となるよう取り組んでいきたいと考えています。



附属図書館 主幹 幸地 哲

附属図書館に4月、赴任しました。その前は沖縄県公文書館で6年間、沖縄県文書等の収集・整理・利用・保存業務に携わっていました。私は、県立図書館、県立芸術大学附属図書・芸術資料館にも勤めていましたので、結構図書館には縁があります。これまでの経験から図書館は、利用者サービスが第一で、そのための資料の充実、利用の便宜を図る手段(目録作成等)の整備、保存が重要な業務であることを学んできました。

ここに来てまず感心したのは、学生の文献利用の頻度が高いことで、とても勉強熱心だということです。生命を育む看護の尊い使命感をもっているからでしょう。熱い心で国家試験に挑戦する姿はまぶしいほどです。資料提供やレファレンス等の形で応援できる私たち図書館員は、それだけでも幸せです。

大学は何といっても学生が主役です。学ぶところに栄光あり！図書館は大学の心臓部と言われているので、その役割を少しでも果たせたらいいなと思います。



教職員の動き (2)

● 平成18年3月

定年退職

学 長 上田 礼子	教務部長 キシケイコ イマイ	教 授 栗栖 瑛子	教 授 宮地 文子
教 授 池田 明子	総務課長 中村 新二	主 幹 盛島 明哲	

退職

助教授 石橋 朝紀子	講 師 永濱 明子	講 師 クレイグ・ウィルコックス	助 手 比嘉 憲枝
助 手 山口 智美	助 手 渡辺 昌子		

転出

法人化調整総括 山城 高俊	主 査 屋良 悦子	主 査 新里 久仁子	主 査 當間 みえ
主 査 玉城 浩治			

● 平成19年4月

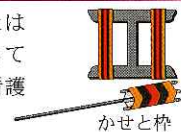
就任

学 長 野口 美和子	講 師 山城 綾子
---------------	--------------

転入

法人化調整総括 具志堅 健	総務課長 古波蔵 保成	主 幹 幸地 哲	副主査 中田 とも子
主 任 徳嶺 かおり	主 事 仲井眞 美幸	主 事 安里 健	

かせかけとは、琉球古典舞踊女七踊りの一つです。総とは紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って着物に仕立てていく、その一途の心と「技術」・「感性」は、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育む教育・研究の原点に相通ずるものであろうと、広報誌の名称にしました。



編集後記

2007年3月、大学院博士後期課程の第1回生が誕生しました。今年は、初代の上田禮子学長に代わり、二代目として野口美和子学長を迎え、新体制で教育・研究に取り組むことになりました。今後とも、大学内外の皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。  
(広報専門部会)

沖縄県立看護大学

〒902-0076  
 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号  
 TEL(098)833-8800(代表) FAX(098)833-5133  
<http://www.okinawa-nurs.ac.jp>